

10月30日 2年生 生活「うごくおもちゃをつくろう」まとめ 【型・お手本の大切さ】

生活科の「うごくおもちゃづくり」の単元の最後のまとめをするということで、授業に入らせてもらいました。

一般的には、教科の学びを生活・総合で活かすパターンが多いですが、2年生は、生活科の学びを国語科の学習に結び付けて、文章を書いたり、新しい単元につなげたりと考えておられます。

そして、やっぱり大事だなあと感じたのが【型・お手本】です。

1. 今日のめあて

「おもちゃ作りの学しゅうを文しようでふりかえろう。」
もじをつなげる ことば → げんこうようし

2. ふりかえりレベルのせってい

ロイロノートに星1から星5までのレベルを見せて、それぞれのレベルでのポイント(学習ステップ)を提示しました。

レベル1:全員クリアしてほしい

レベル2:がんばったらできる

レベル3:できたらかっこいい

レベル4:ちょうどいい。かなりむずかしい



このカードがあるから、書くことに苦手を感じる子も進められたかと思います。

3. にが手な子のためのヒントカード

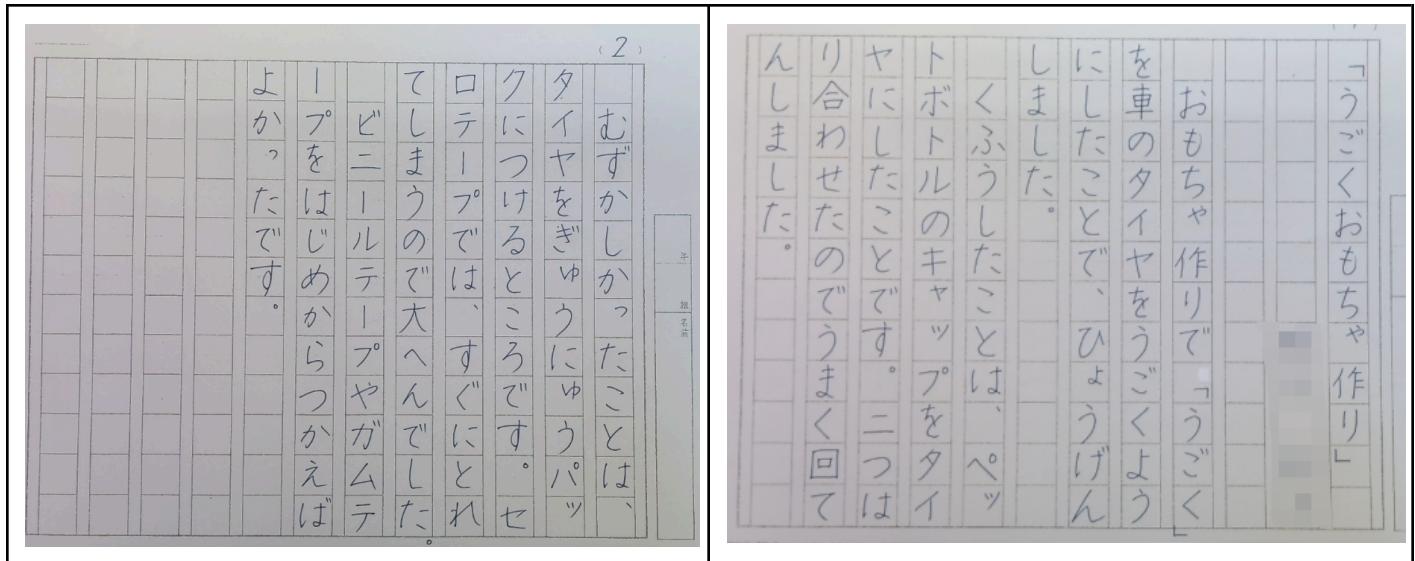
「どうしても書けない、むずかしいなと思った人だけつかっていいヒミツのお手本が入っています。」

全体ではあえて見せずに、紹介だけ。「ヒミツ」というワードで、ちょっとだけ特別感があって、子どもたちは結構ファイルを開けて見ていました(^)o(^)

必要ない人は見ない、必要な人だけ使っていいという個々に合わせた手立てですね。

書くことに苦手意識を持っている子も安心して書き始められます。

いそがしいと、どうしてもこのひと手間をサボってしまいがちなんですね(;^_^A



4. だれと学ぶか

「いつもいつも同じ人と(やっている)、というのはいい学び方とは言えません。」

しっかりとめあてを持たせて、安心の相手だけでなく、チャレンジしたり、関わりづくりをしてほしいという願いが込められていました。



グループに分かれた後、「みんなできた？」と一緒に学ぶ友だちを意識して声かけする姿がステキです！

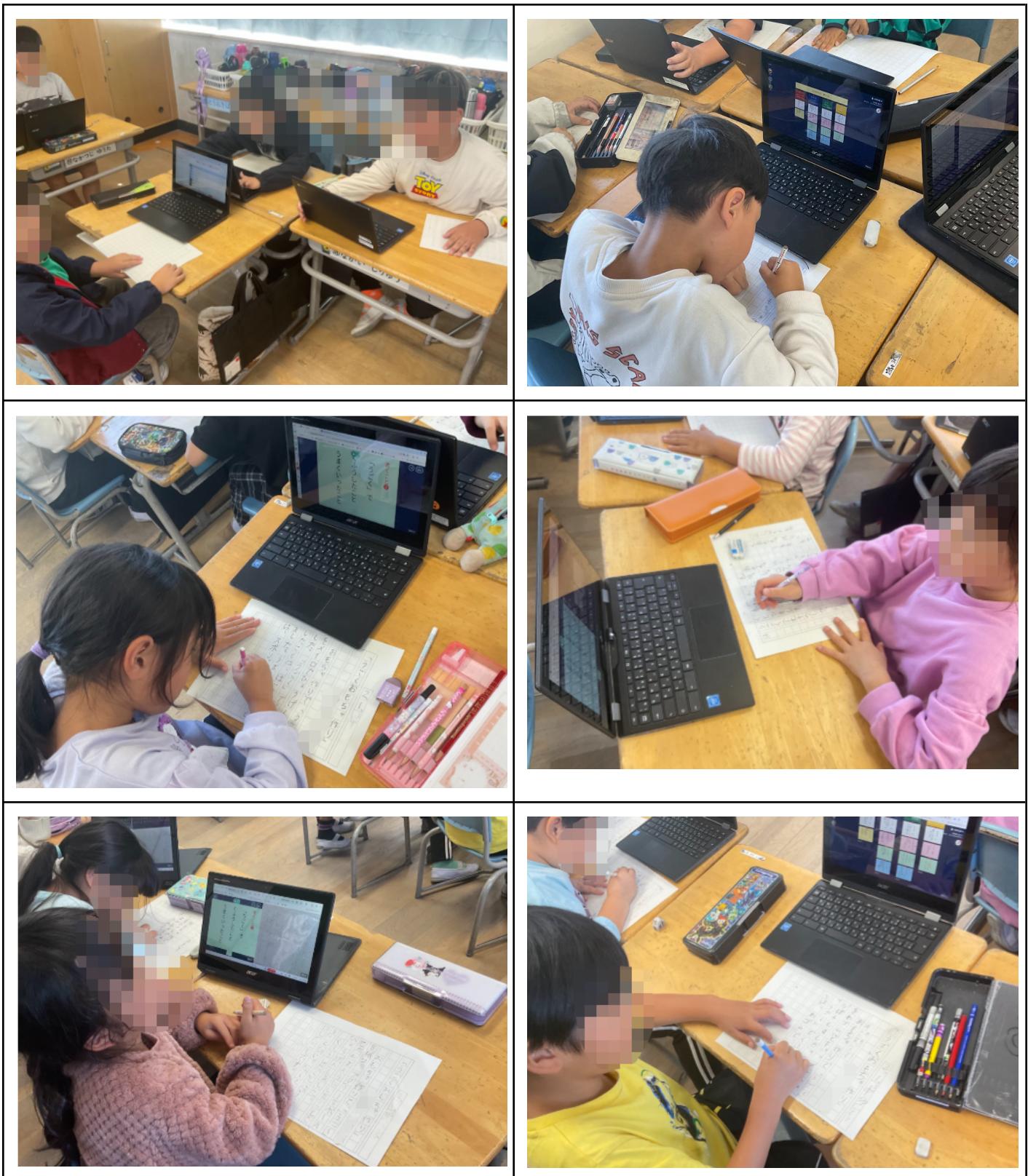
5. 書く活動スタート

今回は原稿用紙。国語の勉強を活かしたふりかえりですね。

「むずかしいは、たからもの。むずかしいときに、脳みそはそだちます！」

書くのが苦手そうな子も、やろうという気持ちで取り組んでいました。

「ちょっとくらいしづらいしてもだいじょうぶ。うんとなやんで、やってみよう。それがだいじです。」



6. できたところまで はっぴょう

とちゅうで、この小発表タイムをはさむのはいいですね！

活動が難しい子が見通しをもったり、さらにモチベーションを上げたり、表現の良さを価値づけたりでき ますね。



発表を聞いた子どもからよかったですと聞きました。

「声が大きかった」 (発表の仕方)

「とてもくわしかった」 (内よう)

「すらすら言えてた」 (発表の仕方)

「わかりやすくて、すらすら」(発表の仕方)(内よう)

「3人ともはきはきいえてた」(発表の仕方)

「はっきりいっていた」 (発表の仕方)

「〇〇さんのやつで、ペットボトルのふたがちゃんとざいりょうの名前をいってた」(内よう)

先生からは、

「先生は、3人の発表をきいていて、あたまの中にやっていることが思いうかびました。細かく想像して、書いていました。」

との価値づけがありました。

(担当のつぶやき)

発表した3人に限らず、多くの子がポイントやお手本を参考に書いているなあと感じました。

そして、繰り返しになりますが、低学年段階でのお手本や型といった指導が中学年高学年での自立した書き手を育てていくと思います。

1年生の生活科でも、さっそくこのロイロノートのお手本と学習ステップを参考に実践させてもらいました。

3年生の総合でも、算数や国語どちらが教科書がないので、今日やってほしいことの型を提示して進めると、いつもより集中して課題に取り組むことができました。

前回紹介した6年生の社会まとめでも、はじめ・なか・おわりの3つのブロックに分けて書く術を身に付けていました。全学年、系統的に学びを積み重ねていきたいですね！